

関西大学工学部 フェロー 吉川 和広
 (株) 日建設計計画事務所 正会員 八木 陽一
 関西大学大学院 学生会員 ○青山 崇

1. はじめに

我が国の都心において、都心商店街の衰退、道路混雑による歩行環境の悪化、公共交通の衰退等の問題が存在する。これら諸問題の解決策として、自動車を規制し歩行者と公共交通の空間を形成するトランジットモールの有効性が注目されている。

しかし、トランジットモールを整備するだけでは、近年の余暇やゆとりの増加による都市整備における景観への関心の高まりから、景観の配慮を忘れては人々の欲求に答えているとはいえない。

そこで本研究では、トランジットモールの景観構成要素が人々にどれだけ影響を与えるかを考察し、定量的に測ることにより、どの要素がどの程度効果があるのかを把握することで、より現実的なトランジットモールの知見を得ることを目的としている。

2. 景観シミュレーションモデルの作成に関する研究

トランジットモールは現在の日本においては、研究・実験は行われているが存在しない仮想の空間であるため、人々が容易にイメージできるようCGを用いてシミュレーションモデルを作成した。

トランジットモール空間には多種多様な要素があるが景観に大きな影響を与えるものとして、舗装のデザイン・植栽・ベンチ・水路・噴水・ボラード・電柱の7属性を対象とした。さらに、これらの整備の有無を変化させ、コンジョイント分析における直行表に基づいて表1に示す8つのシミュレーションモデルを作成した。図1は表1に基づいて作成されたモデルDのCGである。

表1 本研究で用いた直交表

属性 モデル	舗装の デザイン	植栽	水路	ベンチ	噴水	電柱	ボラード
A	有	有	無	無	無	無	有
B	無	有	無	無	有	有	無
C	無	無	無	有	有	無	有
D	有	有	有	有	有	有	有
E	有	無	有	無	有	無	無
F	無	有	有	有	無	無	無
G	無	無	有	無	無	有	有
H	有	無	無	有	無	有	無

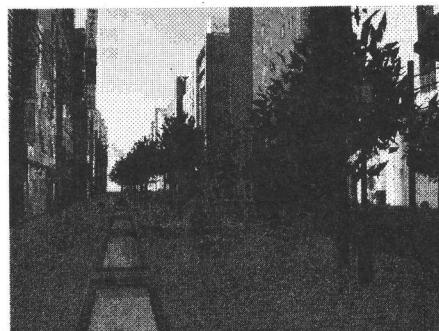


図1 モデルDのCG

3. 調査方法

シミュレーションモデルを用いてアンケート調査を行った。アンケートは対面方式を用い、測定方法は評点法を用いた。評点法は細かい選好データが得られると考えられるが、被験者が景観に点数をつけるのは容易でないと考えられる。そのため、はじめにモデルごとに「行きたい」「行きたくない」を問い合わせモデルを二分割し、次いで順位をつけ、最後に評点をつける段階的な方法を用いた。

4. 結果の考察

舗装のデザインは図2から「有」に正、「無」に負の効用が、図3から被験者が最も重視している属性であることがわかる。これは視覚的効果のみならず、舗装のデザインを整備することにより歩道と軌道の分離が明確になったため、安全であると被験者が感じたためだと考えられる。

植栽は「有」に正、「無」に負の効用が、また舗装のデザインに次いで重視されている属性である。トランジットモール空間においてはトランジットの架線の影響により植栽があることでより閉鎖感をつのらせ評価が悪くなるとも考えられたが、今回の結果から被験者は閉鎖感よりも緑があることによる安らぎを重視したと考えられる。

水路は「有」に負、「無」に正の効用が、重要度は舗装のデザイン・植栽に次ぐ属性である。トランジットモールの歩道の幅員は広いため、水路をおいても景観的に良くなり良い評価が得られると考えられたが、今回の結果から被験者は水路の美観よりも歩きやすさを重視したと考えられる。

電柱は「有」に負、「無」に正の効用が、重要度は二番目に低い属性である。一般的に電柱は無い方が良い評価が得られると考えられるが、重要度が低くなった理由としてはトランジットの架線等により電柱の存在が希薄になったことが考えられる。

ボラードは「有」に正、「無」に負の効用が、重要度は7属性中で最低となった。これはボラードによる歩道と軌道の分離による安全性を認めているが、ボラードを整備することによる統一感の損失により評価が下がったと考えられる。

5. あとがき

アンケート調査の結果から、各景観構成要素の効果の程度を定量的に算出することができ、舗装のデザイン・植栽がトランジットモールの景観形成において最も重要な要素であることがわかった。また、水路のように美観を伴う要素であっても必ずしも良い評価が得られないことが確認できた。

しかし、本研究では景観構成要素の持つ単独の効果のみを算出している。そのため、要素間の相互効果を算出することが今後の課題だと言える。

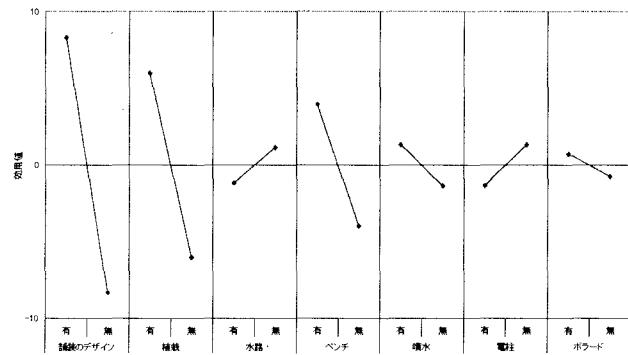


図2 被験者全体の効用値

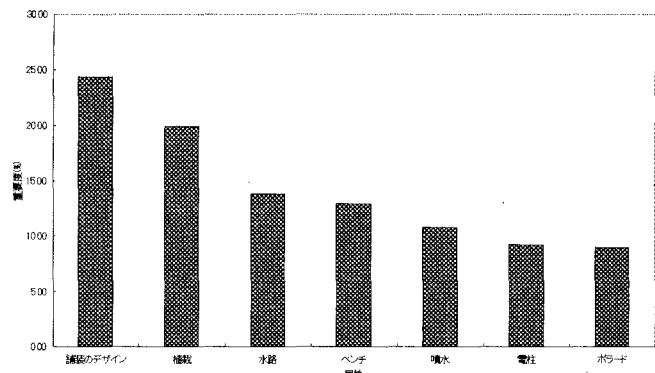


図3 被験者全体の重要度

【参考文献】(財)国際交通安全学会：トランジットモールの計画、技報堂出版社、1988.